

事業所名	グループホーム心から (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年12月5日
評価機関名	㈲東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士、介護老人福祉施設(10年) B:現職 元介護療養型病棟看護師 資格・経験 看護師(8年)、介護支援専門員
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
総合リハビリセンターの施設としての特色を活かし、作業療法士の協力を得て個別リハビリに力を入れている。独自のいきいきヘルス体操は普段動かさない所も自然に動かせるようになっていて、毎日、午後の10分間楽しく行い、入居者同士、また職員とのコミュニケーション作りにも役立っている。
出勤者はホームに来ると「帰りました」と挨拶をし、他の職員は「お帰り」と迎え、家族が外出から我が家に帰って来たように温かい雰囲気だった。同じ2階のフロアにはアシストリビング(高齢者賃貸マンション)があり、そこに入居されている方が自由にホームに遊びに来ていて、その事も開放的な感じを受けた。
平成18年度介護保険制度改正にあたり、ご家族へ医療連携体制加算について説明を行い、当施設では創心會訪問看護ステーションとの契約により、看護師への報告・連絡・相談を24時間できる体制を整えている。また、必要に応じて医療面でのバックアップを行っている。
ご本人、ご家族の意向を最大限考慮し、終末期の介護についても前向きに取り組みを進めている段階である。普段の受診には職員が付き添い、内科・歯科の往診もある。
ホーム主導ではあるが家族会があり、年2回の会合ではホームからの要望や説明を行うと共にご家族からの意見も聞き、理解を深める働きかけがされている。食時会をして親睦も図っている。
きれいに化粧をしている入居者が多く、衣服や身だしなみにも気を配っていた。米は茶屋町のレンゲ米を使用し、低農薬に心掛けている。共用空間の居間には木材を多く使い、壁面は季節感をうまく演出した飾り付けで落ち着ける。「衣・食・住」の基本的な所で、細かな配慮がされていた。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
職員と入居者とのコミュニケーションはとてうまく取れているが、口腔ケアの実践ができていないように見受けられた。入居者の状態に応じた適切な支援が必要と感じたので、検討をお願いしたいと思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>「一人一人の入居者の心豊かな生活」を目指している。その為には「心に添った本物のケア」を提供したいと、勉強会や社員教育に力を入れ、職員同士のミーティングも活発に行っている。職員がやらされていると感じるのではなく、自ら率先して活動して行けるような環境作りに取り組んでいる。</p> <p>入居者より良い関係を作るには職員の気持ちにゆとりが必要で、その為に業務内容の改善を行い、チームケアの向上にも力を入れている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>居室に馴染みの物を持ち込み、共用空間には季節が感じられる物を飾り、落ち着ける雰囲気を演出している。</p> <p>午後のゆったりした時間に、花の本を見たり、買物や散歩に出かけたり、話をしたり、自分の好きな事ができるように個別ケアに力を入れて支援している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者のこれまでの経験を大切にし、好きな事や今できる事を引き継ぎできるように取り組みを行っている。以前、楷書を置っていた方は、毎日の食事のメニューをきれいに書くことを日課にしていた、生きがいにもなっていた。他にも、調理の盛り付けや後片付け、お盆拭きなど、それぞれ自分の仕事として楽しみながら行われていた。</p> <p>職員は、居室へは必ず許可を得て入っており、個人情報は事務所のロッカーに入れて保管している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>個別ケアを大切に考えていて、担当者を決める事で入居者の状態や気持ち把握しやすくなり、より「心」に添ったケアができています。</p> <p>最近では事故は無いが、問題が発生した場合はカンファレンスやミーティングで問題点や対処法を共有している。自分で勝手に決めるのではなく、全員で考えて話し合い、方向性を統一している。</p>		